

需要供給のグラフ対策



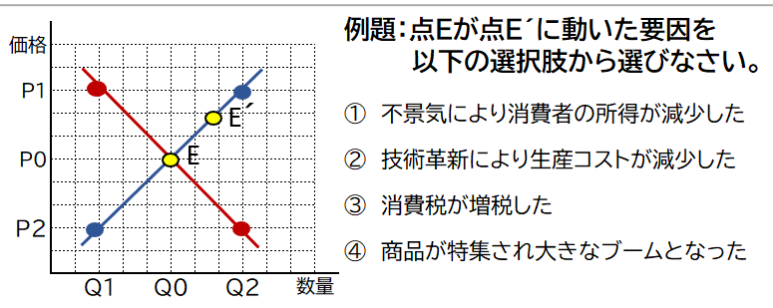
(i) グラフ問題の基本パターン

POINT 需給グラフの問題パターンは2つ!

- ① **グラフを動かす問題** → 要因が提示され、需要・供給曲線が左右どちらに動くかを解く問題
- ② **点から値を読み取る問題** → グラフ上の点を読み取り、数量や価格の関係を示す問題

まずはこの2パターンの問題を確実に解けるようにすること。
具体的な問題を紹介しながら、解き方のポイントを解説していきます。

■ パターン① グラフを動かす問題



点Eが点E'に動くということは、
[需要・供給] 曲線が [左・右] へ動く
ということを意味する

①~④の中からその動きをする要因を選ぶ

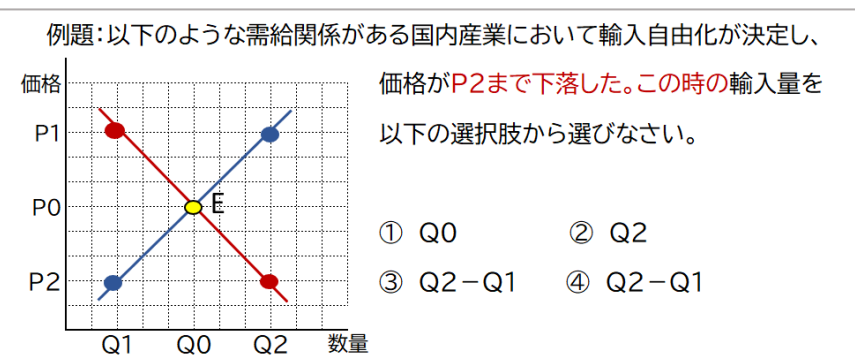
ポイントとしては、深く考えすぎないこと! 例えば、④の商品が特集され大きなブームになったという要因は、「需要が増加する」要因なので、「需要曲線が右へ動く」という答えになるが、深読みすると混乱する。「ブームに便乗して、店側も沢山売りだす?」とか「沢山売れるから仕入れが高くなる?」とか、深く考えすぎないように注意しよう。

直接影響を与えるのが 買い手なのか、売り手なのかとシンプルに捉えることが重要!

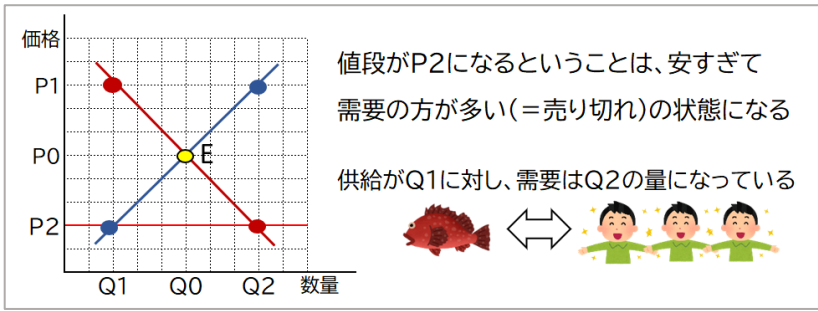
どちらのグラフを動かすかが分かれば、後は**増加するなら右・減少するなら左**に動かす。グラフを動かす問題においてよく出る要因を表にまとめた。確認しておこう。

需要曲線が			供給曲線が		
左へ(需要減)	右へ(需要増)		左へ(供給減)	右へ(供給増)	
衰退	流行(選好)	人気	増	生産コスト	減
減	所得	増	強化	規制	緩和
増税	納税額	減税	上昇	労働者の賃金	下落

■ パターン② 点から値を読み取る問題

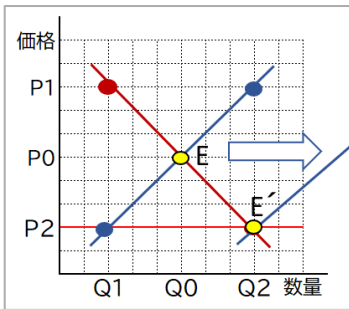


このようなパターンの問題はグラフを動かすことはない。PやQという文字に惑わされず、グラフが何を示しているのかを丁寧に読み解いていくことが重要。

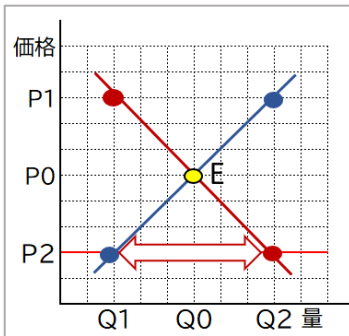


問のような需要が供給を上回ることを [1] といい、逆に供給が需要を上回ること(売れ残り)を [2] という。

このグラフによると、P2は均衡価格よりも安い価格となっており、その分「供給<需要」という関係になってしまっている。PやQとあるから難しく見えるだけで、大したことは言っていない。

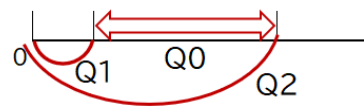


つまり、国内の市場だけでは以下のような関係であったが、国内の商品だけでは需要が不足していたため足りない分を輸入品でカバーしたという流れであれば辻褃が合う。



あとはこの数量を適当な値で示せばよい。

部分を示す選択肢は③のQ2 - Q1である。

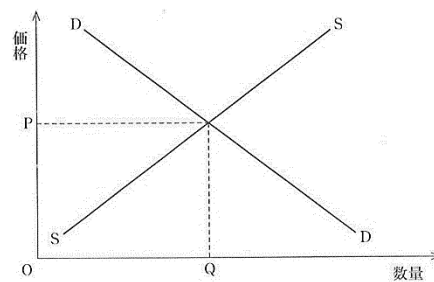


この類の問題はやや難しいので要注意！

■ 演習問題

問1 次の図は、ある財の完全競争市場における需要曲線Dと供給曲線Sとを示したものである。この財を生産するために使用する原材料の価格が低下した場合、そのことによって生じる変化についての記述として正しいものを一つ選べ。

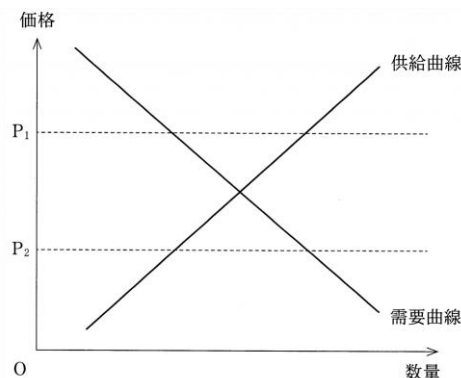
- ① 需要曲線が右上にシフトし、財の価格が上がる
- ② 需要曲線が左下にシフトし、財の価格が下がる。
- ③ 供給曲線が左上にシフトし、財の価格が上がる。
- ④ 供給曲線が右下にシフトし、財の価格が下がる。



問2 次の図にはある財の完全競争市場における需要曲線と供給曲線とが描かれている。

このとき、市場がもつ価格の自動調節機能についての記述として正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 価格がP₁であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が下落する。
- ② 価格がP₁であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が上昇する。
- ③ 価格がP₂であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が上昇する。
- ④ 価格がP₂であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が下落する。



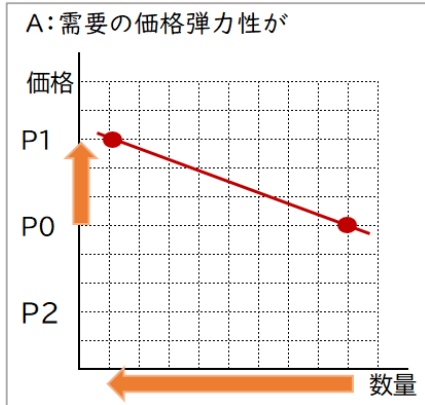
(ii) グラフ問題の応用パターン

POINT 需給グラフの応用問題パターンは2つ！

① 価格弾力性について問われる問題

② 労働市場のグラフ問題 → 労働市場は一般的な需給グラフと考え方が異なるため、要注意！

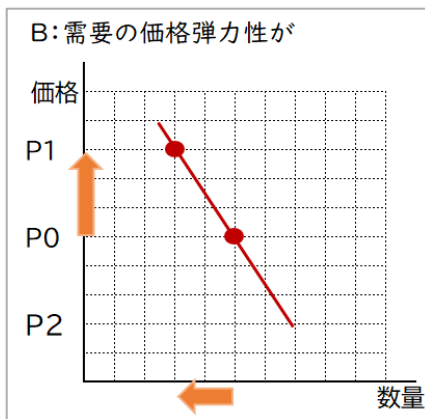
■ 価格弾力性とは何か



何かしらの商品が P_0 から P_1 に値上がりしたとする

傾きが緩やかな A のグラフは、値上げに対して大きく需要量が減少していると読み取れる。このように、価格の変動に対して需要量の変動が大きい状態を、「需要の価格弾力性が[]」という。

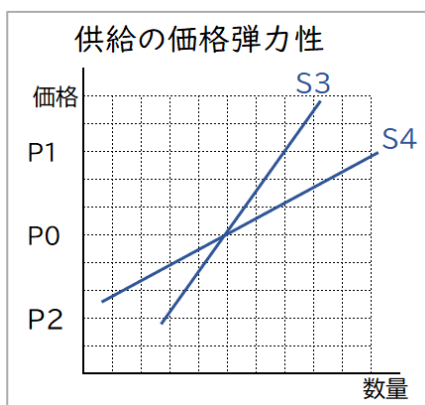
これに対し、傾きが急な B のグラフは、値上げに対しても A ほど需要量に影響していない。このように、価格の変動に対して需要量の変動が小さい状態を、「需要の価格弾力性が[]」という。



需要の価格弾力性が大きい財…宝石や高級食品などの[]
バターなどの[]のある商品

需要の価格弾力性が小さい財…塩やお米などの[]
ガソリンなどの[]の無い商品

同様に供給の価格弾力性についても考える



考え方としては、需要の考え方と同じ。
傾きが緩やかであれば、「価格弾力性が大きい」
傾きが急であれば、「価格弾力性が小さい」となる。

供給の価格弾力性が大きい…工業製品のように、値段によって生産量を
S4 調整しやすい商品

供給の価格弾力性が小さい…農作物や住宅など、短期間で供給量を
S3 増減できない商品

■ 労働市場とは

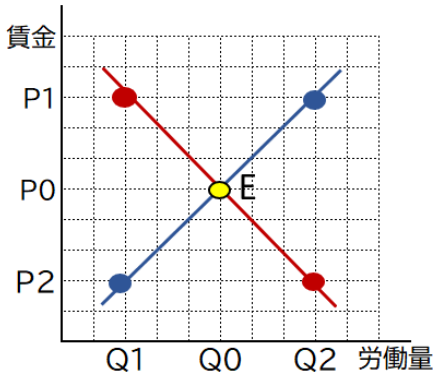
労働市場：横軸を労働量、縦軸を賃金とする考え方で、関係をグラフに示したもの。

「労働力 = 商品」と捉えて考えなければならないため、普通の市場の問題とは考え方が異なる。

- ・ **需要** = 労働力がどれだけ欲しいか。つまり 雇う側が必要とする量 ※「需要 = 働きたい」ではない！
- ・ **供給** = 労働力をどれだけ提供したいか。つまり 雇われる側の働きたい量

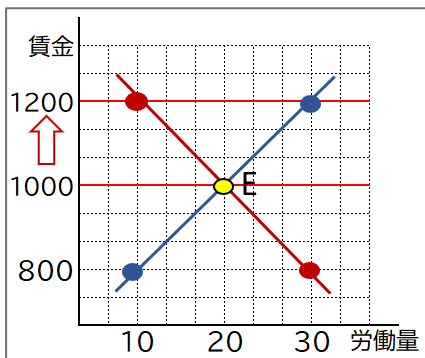
POINT 労働市場のグラフ

- 雇う側（需要曲線） = 安い賃金で雇いたい ⇒ **右下がり**のグラフになる
- 雇われる側（供給曲線） = 高い賃金で働きたい ⇒ **右上がり**のグラフになる



例題) 左のグラフのように均衡している労働市場がある。
 法改正により最低賃金が上昇し、P0 からP1 へ賃金が上がった時、
 その後起こりうる説明として正しい文章を選びなさい。

- ① 超過需要の状態になり、求人者が急増する
- ② 超過供給の状態になり、リストラを実施する
- ③ 超過供給の状態になるため、さらに募集を増やす
- ④ 超過需要の状態になるため、さらに募集を増やす



解き方のコツ

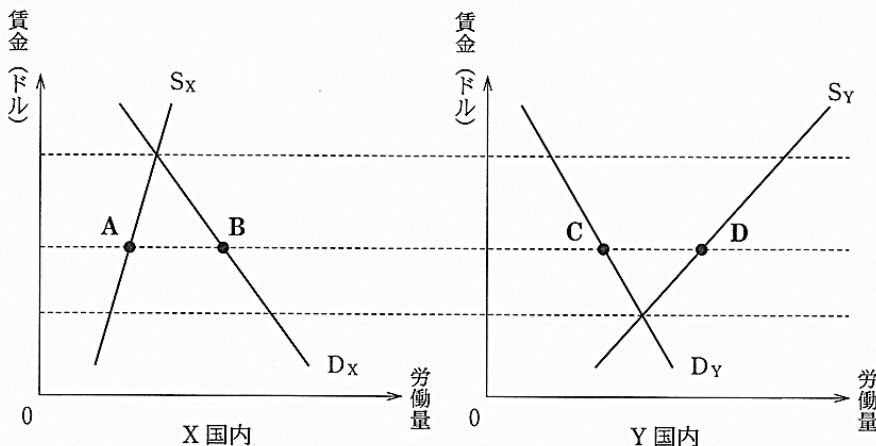
わかりにくかったら、具体的な数字に置き換えてみる！

今回の場合だと、元々1000円だった最低賃金が1200円に上昇。
 それにより、「需要<供給」の状態(=[])になった。
 需要(必要な労働力)が10に対し、供給(働きたい)が30ある状態。
 言い換えれば、求人数が10人に対し応募者が30人いるということ。

以上のように考えていくと、正解は②or③に絞られる。供給が多いということは、働きたい人が多い状態。
 ここでさらに募集を増やすことは逆効果であり、正解は②となる。

演習問題に挑戦！ (2011年センター試験より)

問3 労働移動の自由化が実現していない産業のX国内とY国内の労働市場について考える。次の図の D_x 、 D_y と S_x 、 S_y は、各国内の需要曲線と供給曲線である。この産業の生産物は両国間で貿易ができないものとする。他の条件は一定として、この産業だけで二国間の労働移動が自由化された場合、新たな均衡点の組合せとして最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 3



ヒント：現在の均衡点に注目して、
 今後の労働者の流れを予測！

	X国	Y国
①	A	C
②	A	D
③	B	C
④	B	D

需要供給のグラフ対策



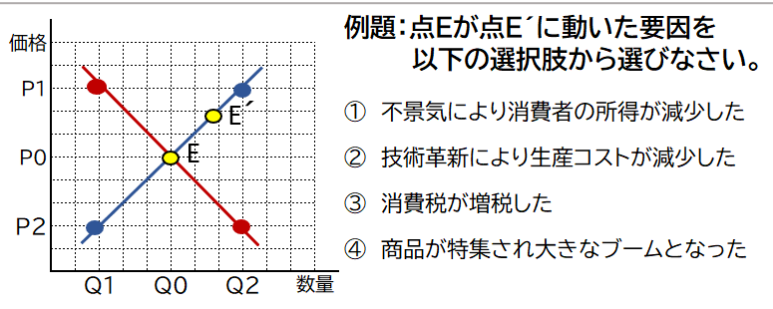
(i) グラフ問題の基本パターン

POINT 需給グラフの問題パターンは2つ!

- ① **グラフを動かす問題** → 要因が提示され、需要・供給曲線が左右どちらに動くかを解く問題
- ② **点から値を読み取る問題** → グラフ上の点を読み取り、数量や価格の関係を示す問題

まずはこの2パターンの問題を確実に解けるようにすること。
具体的な問題を紹介しながら、解き方のポイントを解説していきます。

■ パターン① グラフを動かす問題



点Eが点E'に動くということは、
[需要]・供給]曲線が[左・右]へ動く
ということを意味する

①~④の中からその動きをする要因を選ぶ

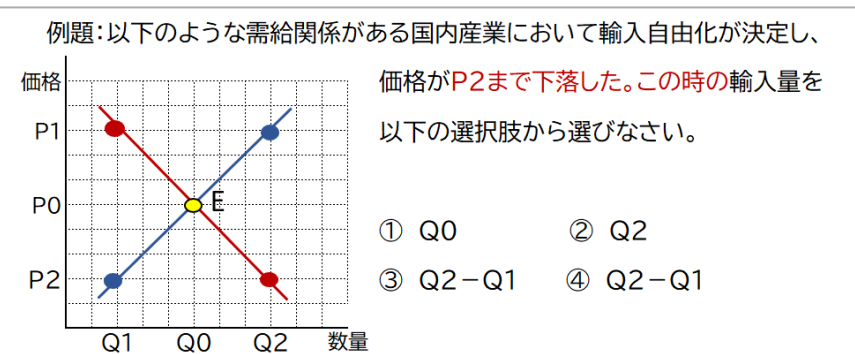
ポイントとしては、深く考えすぎないこと! 例えば、④の商品が特集され大きなブームになったという要因は、「需要が増加する」要因なので、「需要曲線が右へ動く」という答えになるが、深読みすると混乱する。「ブームに便乗して、店側も沢山売りだす?」とか「沢山売れるから仕入れが高くなる?」とか、深く考えすぎないように注意しよう。

直接影響を与えるのが買い手なのか、売り手なのかとシンプルに捉えることが重要!

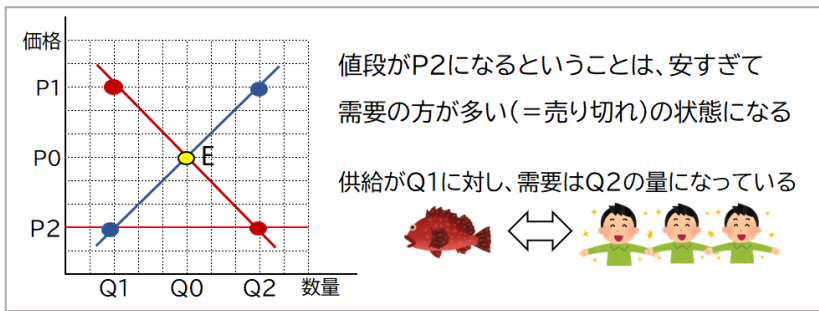
どちらのグラフを動かすかが分かれば、後は**増加するなら右・減少するなら左**に動かす。グラフを動かす問題においてよく出る要因を表にまとめた。確認しておこう。

需要曲線が			供給曲線が		
左へ(需要減)	右へ(需要増)		左へ(供給減)	右へ(供給増)	
衰退	流行(選好)	人気	増	生産コスト	減
減	所得	増	強化	規制	緩和
増税	納税額	減税	上昇	労働者の賃金	下落

■ パターン② 点から値を読み取る問題

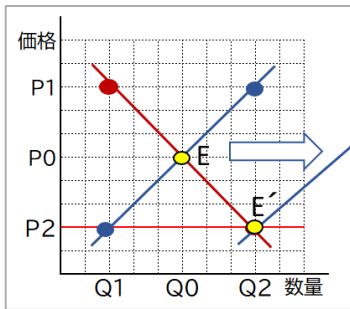


このようなパターンの問題はグラフを動かすことはない。PやQという文字に惑わされず、グラフが何を示しているのかを丁寧に読み解いていくことが重要。



問のような需要が供給を上回ることを [1 **超過需要**] といい、逆に供給が需要を上回る(売れ残り)を [2 **超過供給**] という。

このグラフによると、P2は均衡価格よりも安い価格となっており、その分「供給<需要」という関係になってしまっている。PやQとあるから難しく見えるだけで、大したことは言っていない。



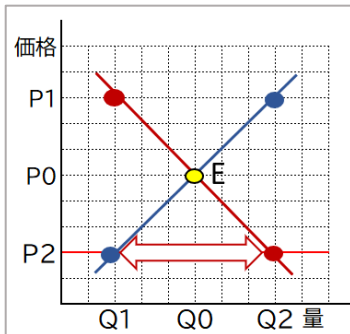
つまり、国内の市場だけでは以下のような関係であったが、国内の商品だけでは需要が不足していたため足りない分を輸入品でカバーしたという流れであれば辻褃が合う。



国内市場のみ

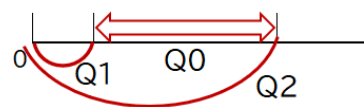


輸入品でカバー



あとはこの数量を適当な値で示せばよい。

⇔ 部分を示す選択肢は③のQ2 - Q1である。

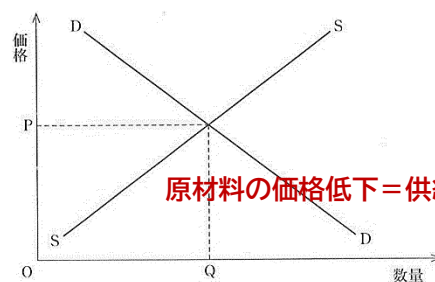


この類の問題はやや難しいので要注意！

■ 演習問題

問1 次の図は、ある財の完全競争市場における需要曲線Dと供給曲線Sとを示したものである。この財を生産するために使用する原材料の価格が低下した場合、そのことによって生じる変化についての記述として正しいものを一つ選べ。

- ① 需要曲線が右上にシフトし、財の価格が上がる
- ② 需要曲線が左下にシフトし、財の価格が下がる。
- ③ 供給曲線が左上にシフトし、財の価格が上がる。
- ④ 供給曲線が右下にシフトし、財の価格が下がる。

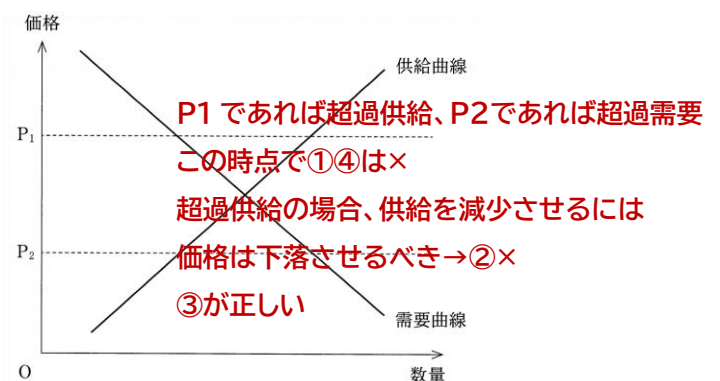


原材料の価格低下 = 供給曲線が右へ動く

問2 次の図にはある財の完全競争市場における需要曲線と供給曲線とが描かれている。

このとき、市場がもつ価格の自動調節機能についての記述として正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 価格がP1であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が下落する。
- ② 価格がP1であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が上昇する。
- ③ 価格がP2であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が上昇する。
- ④ 価格がP2であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が下落する。



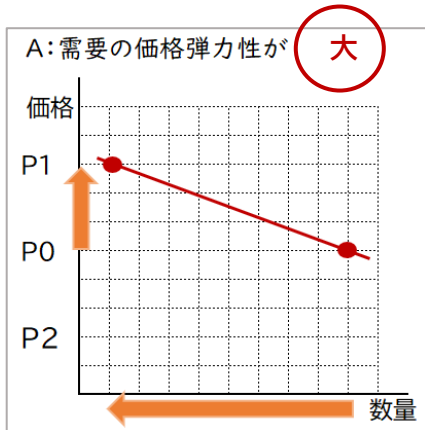
(ii) グラフ問題の応用パターン

POINT 需給グラフの応用問題パターンは2つ！

① 価格弾力性について問われる問題

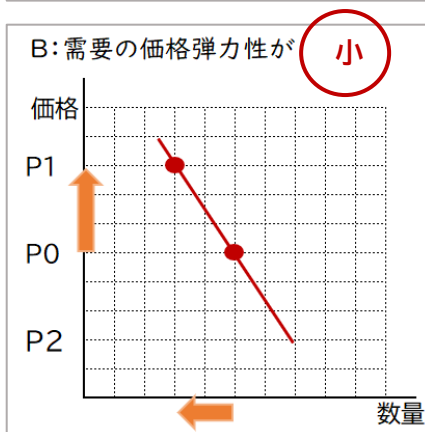
② 労働市場のグラフ問題 → 労働市場は一般的な需給グラフと考え方が異なるため、要注意！

■ 価格弾力性とは何か



何かしらの商品が P_0 から P_1 に値上がりしたとする

傾きが緩やかな A のグラフは、値上げに対して大きく需要量が減少していると読み取れる。このように、価格の変動に対して需要量の変動が大きい状態を、「需要の価格弾力性が[**大きい**]」という。

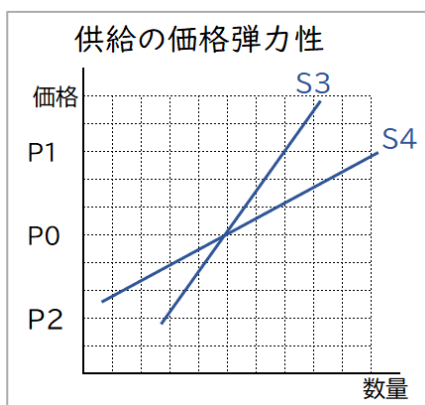


これに対し、傾きが急な B のグラフは、値上げに対しても A ほど需要量に影響していない。このように、価格の変動に対して需要量の変動が小さい状態を、「需要の価格弾力性が[**小さい**]」という。

需要の価格弾力性が大きい財…宝石や高級食品などの[**ぜいたく品**]
バターなどの[**代替財**]のある商品

需要の価格弾力性が小さい財…塩やお米などの[**生活必需品**]
ガソリンなどの[**代替財**]の無い商品

同様に供給の価格弾力性についても考える



考え方としては、需要の考え方と同じ。
傾きが緩やかであれば、「価格弾力性が大きい」
傾きが急であれば、「価格弾力性が小さい」となる。

供給の価格弾力性が大きい…工業製品のように、値段によって生産量を
S4 調整しやすい商品

供給の価格弾力性が小さい…農作物や住宅など、短期間で供給量を
S3 増減できない商品

■ 労働市場とは

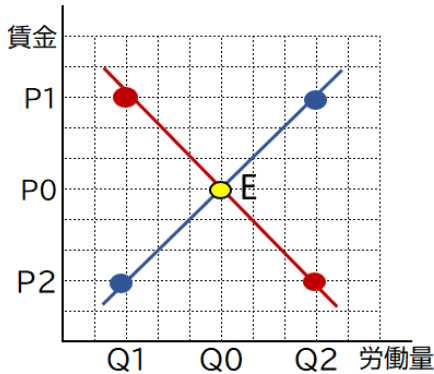
労働市場：横軸を労働量、縦軸を賃金とする考え方で、関係をグラフに示したもの。

「労働力 = 商品」と捉えて考えなければならないため、普通の市場の問題とは考え方が異なる。

- ・ **需要** = 労働力がどれだけ欲しいか。つまり 雇う側が必要とする量 ※「需要 = 働きたい」ではない！
- ・ **供給** = 労働力をどれだけ提供したいか。つまり 雇われる側の働きたい量

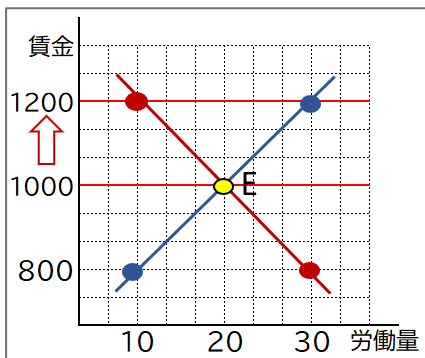
POINT 労働市場のグラフ

- 雇う側（需要曲線） = 安い賃金で雇いたい ⇒ **右下がり**のグラフになる
- 雇われる側（供給曲線） = 高い賃金で働きたい ⇒ **右下がり**のグラフになる



例題) 左のグラフのように均衡している労働市場がある。
法改正により最低賃金が上昇し、P0 からP1 へ賃金が上がった時、その後起こりうる説明として正しい文章を選びなさい。

- ① 超過需要の状態になり、求人者が急増する
- ② 超過供給の状態になり、リストラを実施する
- ③ 超過供給の状態になるため、さらに募集を増やす
- ④ 超過需要の状態になるため、さらに募集を増やす



解き方のコツ

わかりにくかったら、具体的な数字に置き換えてみる！

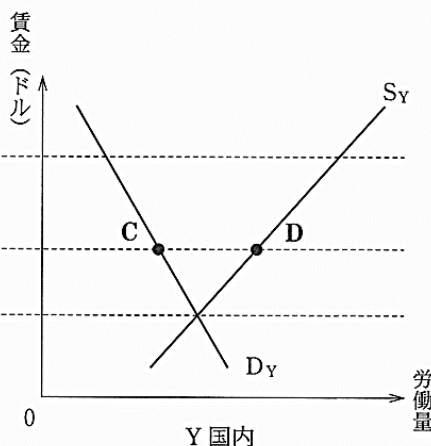
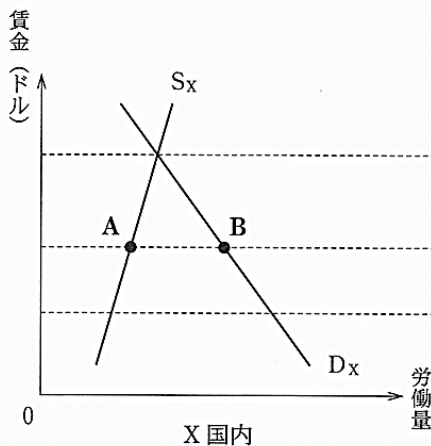
今回の場合だと、元々1000円だった最低賃金が1200円に上昇。それにより、「需要<供給」の状態(=[超過供給])になった。需要(必要な労働力)が10に対し、供給(働きたい)が30ある状態。言い換えれば、求人数が10人に対し応募者が30人いるということ。

以上のように考えていくと、正解は②or③に絞られる。供給が多いということは、働きたい人が多い状態。ここでさらに募集を増やすことは逆効果であり、正解は②となる。

演習問題に挑戦！ (2011年センター試験より)

問3 労働移動の自由化が実現していない産業のX国内とY国内。次の図の D_x 、 D_y と S_x 、 S_y は、各国内の需要曲線と供給曲線とする。他の条件は同じとする。この産業は両国間で貿易ができないものとする。他の条件は同じで二国間の労働移動が自由化された場合、新たな均衡点の組合せを、下の①~④のうちから一つ選べ。 3

【解説】均衡点を比較すると、Y国よりX国の方が高い賃金で労働ができる。この状態で労働自由化が進んだ場合、Y国からX国へ労働者が移ることが予測される。つまり、X国の労働希望者が増え(供給増)、Y国の労働希望者が減る(供給減)。それぞれグラフを動かすと、X国は点B、Y国は点Cへ動く



ヒント：現在の均衡点に注目して、今後の労働者の流れを予測！

	X国	Y国
①	A	C
②	A	D
③	B	C
④	B	D